

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 2 月 26 日

札幌市立 発寒中学校

1 学校教育目標及び3つの柱

<学校教育目標> 未来社会の展望に立って社会連帯意識に結ばれた民主的な人間形成をめざし ○ 人間性豊かな生徒に育てる ○ 創造的知性をもつ生徒に育てる ○ すこやかな体をもつ生徒に育てる

2 本年度の経営方針

『共有から連携へ 連携から一貫へ』
・4つの共有 「教師と子ども」「教師間」「学校と家庭・地域」「学校間」 ・3つの連携 「課題把握、目標設定」「課題解決、目標達成」「具体的な手立て」 ・発寒中スタンダードの確立 「4つの共有、3つの連携を達成するためのマネジメント機能」

3 本年度の育てたい生徒像

・仲間と協力し、助け合える生徒 ・自ら課題を見つけ、その解決に向かって学び続けられる生徒	・互いの考えを尊重できる生徒 ・物事を正しく判断し、自ら進んで行動できる生徒	・心身ともに健康で、健全な生徒
---	---	-----------------

4 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	成果・改善策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す生徒像	・学校づくりの当事者として、仲間とともに成長できる生徒	・生徒アンケート 設問2・6・8・9・11・12 ・保護者アンケート 設問1・5・9	A	○学校生活全般において、生徒が仲間とともに成長する姿が多く見られた。特に、生徒会活動や委員会活動を生徒主体で行うことができた。学校祭や合唱行事への取組を通して大きな成長が見られた生徒が多かった。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		発寒中学校の生徒はマナーやルールを守って生活している。学校祭や合唱など諸行事において、生徒が活躍して成功をおさめておりすばらしい。				
調和知の・と徳れ・た体育のち	学ぶ力	・創造的知性をもつ生徒に育てる ・生徒アンケート 設問8・9・11・13・21・23 ・保護者アンケート 設問6 ・教職員アンケート 設問5	B	○各教科で工夫した授業を行うことで、主体的・対話的で深い学びを実現することができた。 ▲学校評価でいただいた授業の進め方や評価判定に関わるご意見を、研修会・教科会議等を通して共通理解を図り授業改善とともに適切な評価判定に努める。	A	A
	豊かな心	・人間性豊かな生徒に育てる（特別の教科「道徳」の充実） ・生徒アンケート 設問9・10・13・15 ・保護者アンケート 設問9・10・12 ・教職員アンケート 設問10	A	○「議論し考える道徳」の実践をはじめ、「98さまり」について考える道徳、「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」について学ぶ道徳講演会を設定した。 ○すべての教師が道徳の授業を実践するため、学年ごとにローテーションを組み、取り組んだ。 ▲からかいやいじり、いじめにつながりかねないトラブルも起きている。3年間の中で豊かな心を育成できるよう引き続き取り組んでいきたい。	A	A
	健やかな体	・すこやかな体をもつ生徒に育てる ・健やかな体育プログラム ・札幌市共通指標 設問30・31・33 ・全国学力・学習状況調査 生徒質問紙	A	○体を動かすことは大切なことである、と生徒が理解している。 ○保健体育科の授業において、生徒が楽しみながら取り組めるように工夫をしている。 ▲全国学力学習状況調査生徒質問紙では、「同じ時間に寝る」「毎日朝食を食べる」という項目に課題がみられるため、基本的生活習慣の確立に力を入れていきたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		授業改善、適切な評価・判定について、先生方が共通理解をもっと深めてほしい。道徳の授業における講演会の実施は、中学生にとって貴重な経験である。				
札幌らしい特色ある学校教育の推進	・朝読書 ・雪と親しむ授業 ・環境教育	・生徒アンケート 設問3 ・保護者アンケート 設問2	A	○朝読書については、心を落ち着けて学習に向かうために大切にしたいと考えている。 ▲学校評価保護者アンケートの中では、家庭における読書活動への意欲を問う項目の数値が低い結果となった。 ○保健体育科の授業において、グラウンドで「雪と親しむ活動」に継続して取り組んでいる。 ○生徒会を中心とした、SDGsに関わる道徳授業を実践している。	A	A
人間尊重の教育	・正しい知識を学び、理解を深める。 ・一人一人が大切にされていると感じられる学校づくり	・生徒アンケート 設問9・15 ・保護者アンケート 設問12・13 ・教職員アンケート 設問6・7・9	A	○年間を通して、生徒指導部と養護教諭がタイアップし、ダイバーシティ、性的マイノリティ、生命等を扱った道徳教育や総合的な学習の時間を設定している。 ○さまりの見直しに関して、生徒・保護者の意見や要望を含め、多くの考えを吸い上げるボトムアップ的な取組を進めており、成果が出ている。	A	A
信頼される学校の創造	・適切な情報発信 ・教職員の法遵守	・保護者アンケート 設問15・16 ・教職員アンケート 設問11	A	○すぐるを活用し、さまざまな情報発信に取り組んだ。アンケート機能を利用し、PTA集会の出欠や学校評価アンケートの集約など、効率よく進めることができた。 ○本校ホームページを活用し、地域や保護者に学校便りや学校の様子を配信した。生徒のプライバシーに配慮し、パスワードが必要な情報と分けて配信している。	A	A
小中連携	・9年間の学びをデザインする ・将来の自立に向かう児童生徒を育てる	・小中連携実務担当者会議の定期開催 ・札幌研の研究会 ・授業交流・テーマ別分科会 ・あいさつ週間の設定 ・小6中学校訪問の実施	A	○実務担当者会議を通して、9年間を見通したキャリア・パスポートの活用など、共通理解を図ることができた。 ○授業交流やテーマ別分科会を通して、パートナー校との教職員間連携を深めることができた。 ○4校で同時期にあいさつ週間を設定し、生徒会・児童会連携の取組を実施した。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		標準服・略装のバリエーション(選択の幅)があり、とてもよい。小中4校によるあいさつの取組はとてもよい。継続してほしい。				